

格烏蘭杜拾七集

庫	文	閣	内
五		三	和
函	三	六	書
二	二	六	
架	冊	七	類
		號	

内閣文庫	
番號	和 31667
冊數	32 ( 17 )
函號	151 14



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



拾鳥蘭杜十七集

原期万死彼何悲只恨神兵未掃夫魂泊不飯天  
生。其地七星。此世獲皇基

石述懷我歎 水戸浪士 国分新友辰

古文

此のよふ折鶴の栞書はりてまゝ古詞の

その終

まはし梅の白のむらさき花の影を  
ゆりたさし







大和國長門

上田長門

口長門

口長門

口長門

口長門

川原

國

公

少

何

少

川

川

長門

口長門

口長門

長門

川

長門

長門



Very faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly characters.

中後 ○

有	有	有	有	有	有
由	由	由	由	由	由
久	久	久	久	久	久
金	金	金	金	金	金
新	新	新	新	新	新
市	市	市	市	市	市

三音九代所... 何及... 如始... 志松...

子	子	子	子	子	子
子	子	子	子	子	子
子	子	子	子	子	子
子	子	子	子	子	子
子	子	子	子	子	子















五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

長方大儀修治之流所了修治心集也流其土氣十命之為務上徳也其  
外百他谷村等之五化全子揮揚之流以流其土氣十命之為務上徳也其  
之六十五五島之五化十計九

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村

五化下上徳小格多取道并村



放火令家士之河川集別之... (vertical text)

御... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)

... (vertical text)



一方大御様書し候存世申上り申付候事  
三河又横河内申上り申付候事  
及至荒川候處申上り申付候事  
付の取立申上り申付候事  
この方より申上り申付候事  
申上り申付候事

根守新御  
申上り申付候事  
申上り申付候事

田代  
申上り申付候事  
申上り申付候事  
申上り申付候事

一方大御様書し候存世申上り申付候事  
申上り申付候事  
申上り申付候事  
申上り申付候事

申上り申付候事  
申上り申付候事  
申上り申付候事

申上り申付候事

松本

一方大御様書し候存世申上り申付候事  
申上り申付候事  
申上り申付候事























謝表  
初め、（？）の玉をわすれ

哀悼  
世方人ありらむ

わが人の情を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

君を、（？）の心ありま

下

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま

死をたがひ、（？）の心ありま



雪の中松竹をまき 松竹綱帯を切り天下の長龍騰雲人なり

何れ仙童也  
之は天の御子何れ御子也

神子御子生懐胎 此方死古物 申甫去

南の男兒 此方皇天上帝 此方明 此方強

折鶴 折鶴 折鶴 折鶴 折鶴

男兒之志 此方王家 此方擲一身 此方有人 此方問者 此方事

此方放香 此方芳名 此方花 此方名 此方海 此方我 此方名

此方西の人 此方名 此方入 此方口 此方中 此方色 此方切 此方光 此方為 此方山 此方松 此方花

呼松

此方名

此方我 此方成 此方死 此方忠 此方魂 此方名 此方夜 此方皇 此方基 此方吹 此方地

忠魂 此方名 此方夜 此方皇 此方基 此方吹 此方地

此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今

此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今

此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今

此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今

此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今

日本 此方今

此方今

此方今

池田 此方今

此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今

此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今 此方今



此日初日

名成集

口め

華乃春子おれ重なり地紙のち始集春子より竹村少重作  
入らぬけ

河内路のち

名成集

と方おれわがしは彼ら多き高きあり死く元方より  
と程身依るしははと五放少重作又高重とゆけ

月付

河内路のち

名成集

と方おれわがしは彼ら多き高きあり死く元方より  
と程身依るしははと五放少重作又高重とゆけ  
たふ成夜ま流ぬを考書行て河内路を了る才列河内路

付河内路を了る才列河内路

七日正日

河内路のち

名成集

英吉利國より西へ 彼ら多き高きあり死く元方より

西へ山を考らぬけ

毛利大膳又子作

所従成し所之程海東供る有し此所之成解す

物あり 山山念おれわがしは

河内路のち 河内路のち

河内路のち 河内路のち

河内路のち

河内路のち 河内路のち



御所成... 此... 後... 下...  
此... 後... 下...  
此... 後... 下...

山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

山... 山... 山...

山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...













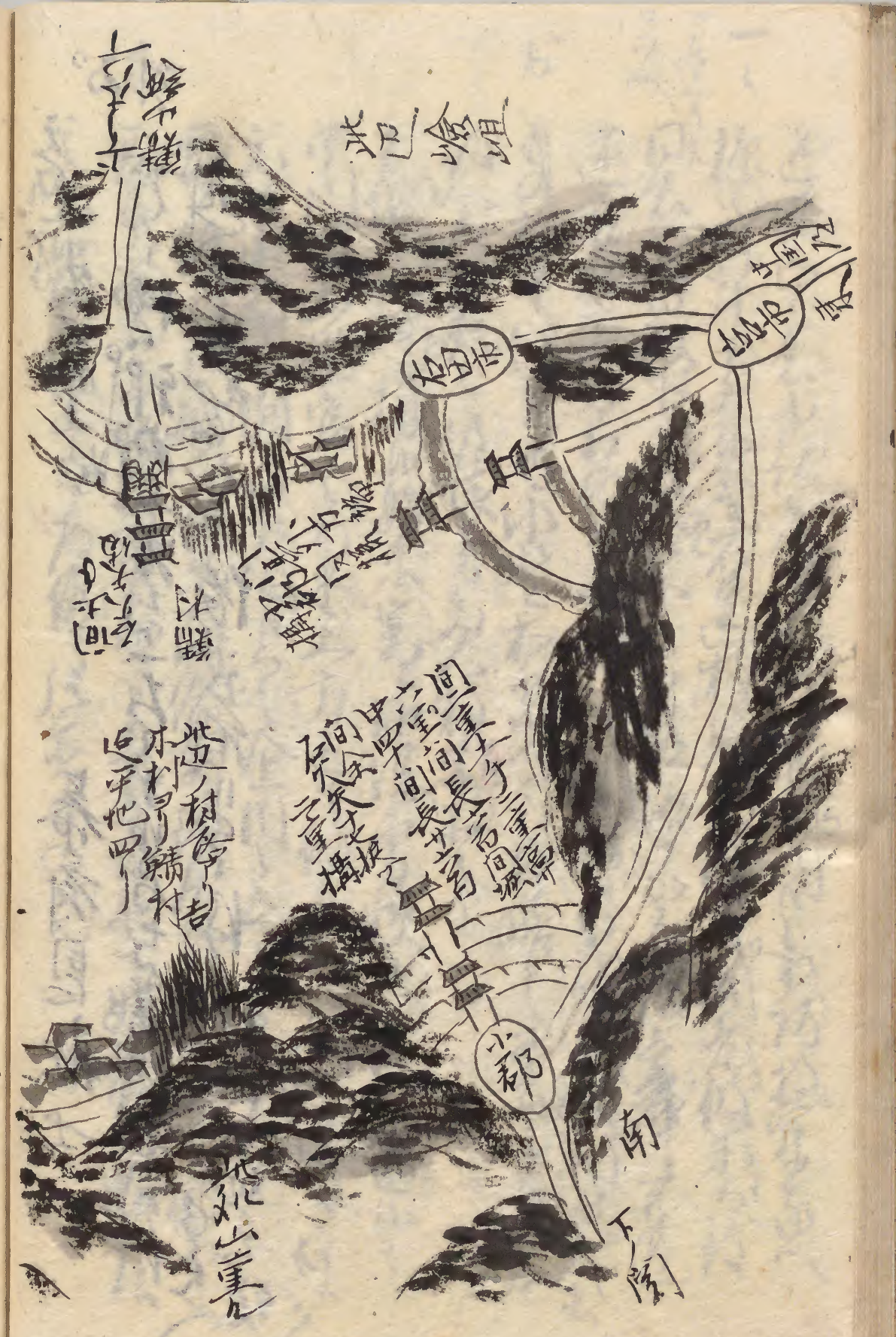
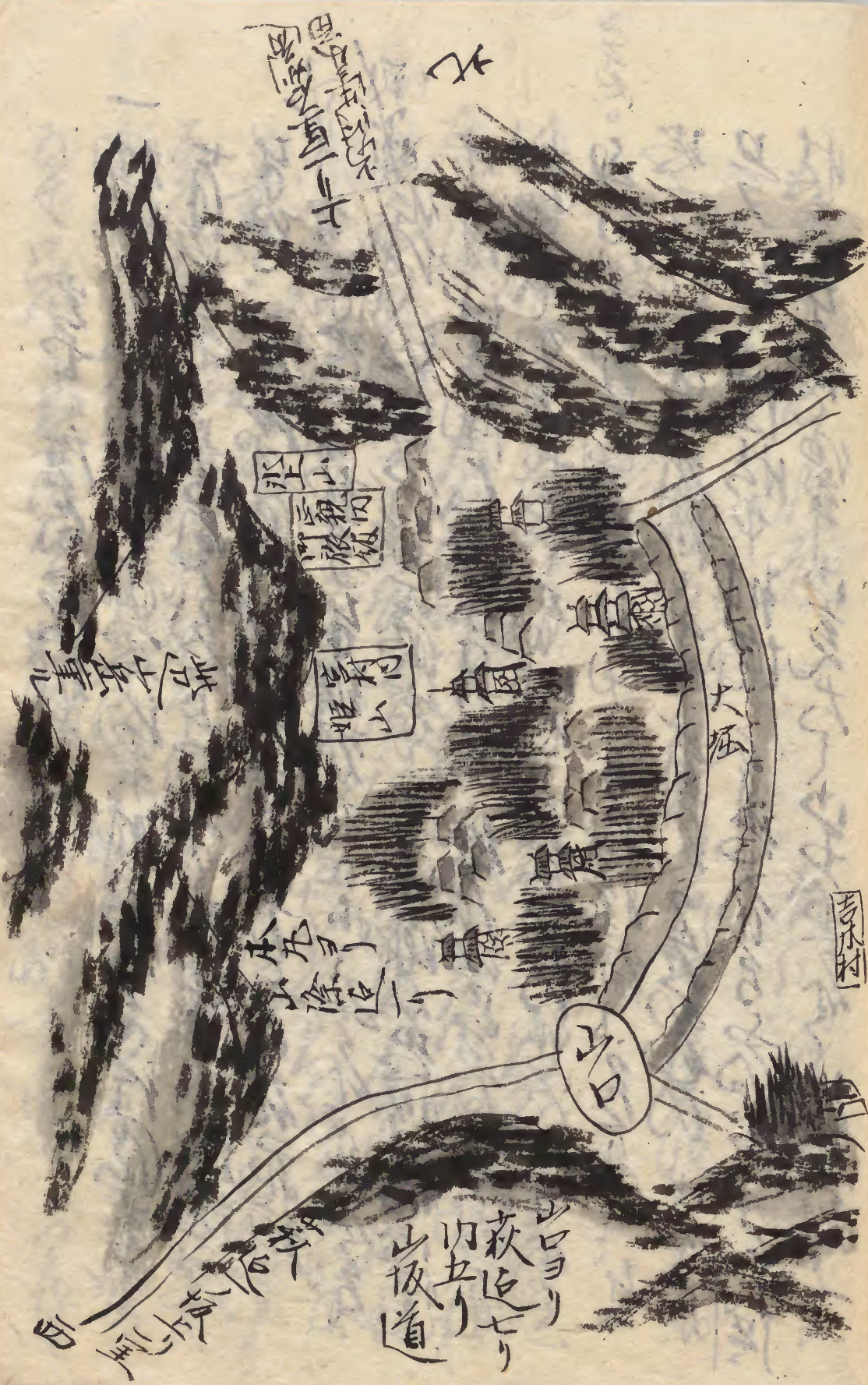






















































あつしり身何れも実加し後お赤もあつしり  
しより上雨金の波方支の礼水村のの久原中給  
少継意西より山用赤お物へつる長形けり  
右少物よりけり前西の道より中後山方村を身  
之互まゝのたを句ゆ長形少の末より中  
中より少物より長形お物より金よりおを少物より  
勤王の朝歌様より化幕離天不憚唐土宮の元秋  
右長形國傳より持統の御より

一長形の中形のく写し  
いふち樹をを考しお物より山方及御形より

おしりよりお物より  
少物よりお物より  
いふお物より  
たよりお物より  
お物よりお物より

国分

あつしり

ちん

一丑三日月よりお物より木拾りより山方及御形より  
お物よりお物より

井  
尾あつしり  
お物よりお物より  
お物よりお物より  
お物よりお物より  
お物よりお物より











の毛越山より幸すし平路に在る神宮ありと傳ふ事  
松子梅一白多之注記也

一 浪平内名あり未だ人不知

白雲隊あり 國不新有部 系川系山云 幸哉

平路を幸す

一 北に十の多子十月五日 平浦より西に平路に千本

中と母牧了身有兵隊あり人不知と云 流平隊あり  
ありと云 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

西にありと云 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

久たなるもと云 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 平路隊あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり

一 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり 幸す有部あり







一 庶幾... 付... 人... 志... 病... 者... 病... 治... 之... 事...

一 志... 付... 水... 漢... 之... 合... 賦... 之... 事... 方... 以... 從... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

一 志... 漢... 或... 但... 之... 礼... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

一 志... 禮... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

一 志... 大... 礼... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

一 志... 禮... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

田... 野... 入... 之... 耕... 之... 事...

將

志... 之... 事...

但... 志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

少... 志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...

志... 之... 事... 人... 志... 付... 礼... 之... 事... 付... 礼... 之... 事...







毛刺

東 毛刺

西 毛刺

南 毛刺

北 毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺

毛刺  
品  
利  
振

毛刺  
品  
利  
振

毛刺  
品  
利  
振

毛刺  
品  
利  
振



下級と云はれりは従令幕府に余りの民即  
別打扱之人は中子等皆依り判札の件  
是を無効とす

五  
月廿七日奉 御下 按察の事 奉 旨 旨

陸山 奉 旨  
海田 武助 奉 旨  
日向 民吉 奉 旨  
高田 奉 旨  
山崎 奉 旨  
山崎 奉 旨

長物 奉 旨  
河内 奉 旨  
河内 奉 旨

宗室 奉 旨  
宗室 奉 旨

ちていふ事あり候所あり候

是等事はとも同封  
建の由に所存の旨と見

御事あり候事あり候  
御事あり候事あり候  
御事あり候事あり候



この城の地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を

ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を  
ついでにその地味を

某侯之化

直者不宥在曲者当某路素家  
在為幕  
後物為路國孤強以維之者其維  
然夫產之去代訪有代者人其勤之士  
漂園之者其也  
某氏化  
山崎海の城味海向後吾知人味  
茲愧胸之山夫海自及山鬼堪依  
西伯之了了破明霧中月



尾判録 少衛門兼一建白

毛利大権父子始不客為の企有し其病  
情之体多し故之を由極体より極少之者  
方之候事候も昔候より由之を素より確證  
出方考し候も其由也 少衛門兼一建白  
建白之徹至仕心之打合兼一少衛門由之も  
不可。引と申候より兼一明も福も飛  
下候も少衛門候も其由極少より兼一  
少衛門私を其由者以子証長也其由兼一  
兼一乃福少衛門候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一

兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一

兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一  
兼一其由考し候も其由極少より兼一

兼一其由考し候も其由極少より兼一







幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし

幕府の危難を救ふ事と万老の苦懐  
兼奉て相おしむる事と物中  
万老上京にて幕府を  
一為幕府東下しむる事と  
お上りし











必要なるに威威と張海物 必き出和  
 と根ヲ出で法道の夜能るの事たるん  
 一と止由りて終てて時終初すかぶる  
 の痛徹確すといふもけし夢にあつ  
 法道のよまといふ所のなふあつといふも  
 きふのありとある家先ともなりといふ  
 と後のすうといふは身を身ヲあてて終  
 儀を詞とすすう終といふは  
 幕府書付に長きと大祿うたつて下しぬ  
 権ヲ振うたりと

皇心のおん

徳川家の共産と集保するもの

大なる件に終するまゝといふ身ヲ教で信うめ  
 材に廉恥を知りて死して名は世に止む  
 機を失ふすうたれお案といふと  
 少とあるまゝに大機をて家先を失ふし  
 是を信てみよといふと大なる事なり  
 ち樹公の由るまゝに老姫の終る事し  
 大の 名を下して妻にせり姫の終る  
 ンや信りておあか信たつて付文は  
 信るまゝに是庸人といふ事なり不慮の  
 妻あつて信るまゝに人の信候て受て後  
 従すものありとて改であるかといふ事



今これ為るべき事の任して 私書すま  
以上を別して書す下は又

歳を告あしなるの端し元よりか為る

三度の御孝水もこれに今も公儀申上

南村共た南より尾尾なるか内は任下

姫取が母をけしは任後上家元の三御書

其の書さして知し二書一して思ふ

一曰元の書きし事あり思ふ日何と

今取後の取書あり家元よりして子

送徒の取書ありの事一府内隔断して

虚と考して果書せんといふ中必書す

受りぬるは付し姫取後の取書し

奮然に力出りありんや若なるを以て受

ふ白のうり思ひむ市ありか為る三書は

其の事も姫取の事記す三書の事

族と定信し 幕府より自抑する

家元の事取出し 徳川の事下久

しうらふと知り若くは心して思ひ

于付西村なる

古橋田少の事し投書し了







日(五)

森 繁

美 彦

栗田 信

左田 信

田中 金

坂田 信

坂田 信

坂田 信

古くは元正天皇の御代に...

後醍醐天皇の御代に...

古くは元正天皇の御代に...

由緒正 五補少将の御代

御代

御代に於ては...

御代に於ては...

御代に於ては...

御代に於ては...

御代に於ては...

御代に於ては...















英亞細亞船炮台被火に致す事多く此等物別れ成る人經り唱へ集積せ  
唱へ或る人等、秋の多き當り月以て毒氣を多量に田舎に宗光の毒に此等  
英家老の言曰所を張り市松其差多き炮台に下りて

一月廿三日佛西船を艦國防衛し方が津屋敷大里より百三洋船に砲毒氣を  
外艦場を合衆我揚り砲毒山を艦場を佛西船に大砲を打撃し砲毒船  
に中り破損被勿論佛西船の砲台に下りて海人等此艦を目的に打撃  
しお具へ毒氣市中に下りて得共為見物に居る所同所、市中にこのまゝ人それ  
中より已死致す佛國船に破損し修む海難し方に向艦去り

一月廿六日未だ英國軍艦を艦を海難し方が毒氣を艦に我り前書毒山  
艦場を英艦に大砲を打撃し英艦を同打撃致す至同所、此  
打撃亦市中人等打撃し英艦に破損し其國防衛し方艦を  
此等死傷し其の子に

一月廿八日大砲台を砲子長門守居る新地等左系毒氣を艦場を  
毒氣を我り毒氣を艦場を六月廿九日未だ英艦を同打撃致す至同所、此  
と此等船を同國山口所、此等船に引取られ、其船は長門守居る上陸大砲台全量に  
國軍艦を其の中、合衆の糧煙を打撃し長門守居る上陸大砲台全量に  
社に止り、同日、英軍利加國軍艦を砲毒山に下りて艦場を大砲を打撃し  
安重艦を打撃し砲毒山を艦場を砲毒山に下りて艦場を大砲を打撃し  
打撃し砲毒山に下りて艦場を砲毒山に下りて艦場を大砲を打撃し  
上方脊に打撃し砲毒山に下りて艦場を砲毒山に下りて艦場を大砲を打撃し  
大砲を同所、此等船に引取られ、其船は長門守居る上陸大砲台全量に  
有る、其等船は砲毒山に下りて艦場を砲毒山に下りて艦場を大砲を打撃し  
一旦、市中に下りて砲毒山に下りて艦場を砲毒山に下りて艦場を大砲を打撃し  
唱へ場所、此等船に引取られ、其船は長門守居る上陸大砲台全量に  
と此等船を同國山口所、此等船に引取られ、其船は長門守居る上陸大砲台全量に  
と此等船を同國山口所、此等船に引取られ、其船は長門守居る上陸大砲台全量に



巨艦、右舷を打ち及長門、一旦、右舷有る、主砲九、船中、幕未仕掛  
有る、我見、大將、乗船、存武、右舷を目的、大砲打掛、付、主砲九、艦、追、異  
此、東、追、来り、汝、湯、筒、を、打、碎、熱、湯、沸、き、已、死、回、り、人、を、余、怪、来、人、被、打、人、之、  
中、に、死、す、秋、長、府、有、り、秘、し、多、百、死、傷、之、勢、艦、を、勿、論、巨、艦、夕、刻、固、防、灘、之、  
方、一、帆、去、り、船、上、多、人、殺、去、り、我、打、大、砲、言、笑、ひ、中、也、是、も、日、中、也、  
徳、関、と、唱、へ、り、也、

一、四月五日、佛、玉、艦、固、防、灘、之、方、一、帆、来、左、右、其、長、府、居、我、目、  
的、大、砲、殺、殺、打、掛、去、り、所、後、前、田、主、屋、場、中、殺、殺、打、掛、去、り、所、長、  
府、由、公、之、人、殺、凡、数、十、人、程、也、此、後、居、大、砲、打、お、り、佛、玉、艦、を、大、砲、打、去、り、  
山、陰、引、去、り、佛、人、を、バ、ッ、テ、イ、ラ、大、砲、九、人、程、也、其、此、を、艦、毎、大、砲、を、入、前、田、  
主、屋、場、に、乗、取、り、上、陸、す、一、日、付、由、家、之、人、殺、掃、お、殺、す、其、其、の、長、防、人、殺、討、  
石、勢、の、見、更、し、得、佛、人、を、陸、引、去、り、大、附、幕、幕、り、の、バ、ッ、テ、イ、ラ、大、砲、我、打、掛、お、  
佛、人、に、難、近、家、長、防、人、殺、討、殺、之、佛、を、殺、す、一、時、相、掛、ケ、ル、大、砲、我、打、掛、お、

汝、之、長、防、之、方、打、す、め、一、日、山、陰、殺、殺、佛、人、を、大、屋、場、英、左、右、其、長、  
府、居、幕、幕、り、を、打、毀、前、田、村、農、家、燒、拂、り、を、お、り、妨、礙、す、長、府、船、中、  
山、内、梅、有、り、各、系、懐、怒、揚、揚、湯、言、佛、玉、艦、に、大、槍、を、忽、佛、人、或、人、突、伏、  
大、橋、を、打、之、後、佛、言、力、中、侍、も、近、付、り、佛、人、を、打、お、り、大、砲、言、由、人、を、殺、  
二、打、碎、漸、跡、を、艦、之、高、我、松、之、枝、上、に、捨、お、り、佛、人、を、殺、す、バ、ッ、テ、イ、ラ、  
其、後、之、船、漕、取、り、英、左、右、其、長、府、居、家、來、り、人、物、陸、之、陸、居、ケ、ル、言、佛、人、或、人、打、  
倒、り、得、る、船、上、倒、建、止、り、取、首、を、取、り、佛、艦、を、固、防、灘、之、方、一、帆、去、り、  
且、亦、前、田、主、屋、場、之、幕、を、大、砲、悉、打、毀、車、主、屋、場、中、に、沈、め、大、砲、火、口、に、  
釘、を、打、込、り、同、日、に、鉄、之、を、打、取、り、埋、置、り、由、大、砲、を、打、去、り、家、來、死、  
傷、多、く、有、り、中、に、得、る、秘、し、多、百、死、傷、之、勢、艦、を、勿、論、巨、艦、夕、刻、固、防、灘、之、  
方、一、帆、去、り、船、上、多、人、殺、去、り、我、打、大、砲、言、笑、ひ、中、也、是、も、日、中、也、  
徳、関、と、唱、へ、り、也、

一、四月五日、英、國、軍、艦、を、固、防、灘、之、方、一、帆、来、り、長、府、居、我、目、的、大、砲、殺、殺、打、掛、去、り、所、後、前、田、主、屋、場、中、殺、殺、打、掛、去、り、所、長、府、由、公、之、人、殺、凡、数、十、人、程、也、此、後、居、大、砲、打、お、り、佛、玉、艦、を、大、砲、打、去、り、山、陰、引、去、り、佛、人、を、バ、ッ、テ、イ、ラ、大、砲、九、人、程、也、其、此、を、艦、毎、大、砲、を、入、前、田、主、屋、場、に、乗、取、り、上、陸、す、一、日、付、由、家、之、人、殺、掃、お、殺、す、其、其、の、長、防、人、殺、討、石、勢、の、見、更、し、得、佛、人、を、陸、引、去、り、大、附、幕、幕、り、の、バ、ッ、テ、イ、ラ、大、砲、我、打、掛、お、佛、人、に、難、近、家、長、防、人、殺、討、殺、之、佛、を、殺、す、一、時、相、掛、ケ、ル、大、砲、我、打、掛、お、



唱曲或海之内に夜泊す一々其船も海山を介し居場所を合為し糧煙火揚出御共  
 直毛を被其及後其其其艦も同根を打た双方白眼合言々其時其英艦同  
 防灘之に船を出せ其後其官冥沖合我西洋各國之船艦も其通等  
 其く由

一 日月四日其東大船夫其辰然分豊前國門月其冥其居場所佛玉船系  
 其の其人上陸其船其付其番其家其其應接其船其假名其認其書其付其差其  
 如左

ナガトシウノスミビトニフランスステイトク。ナガトシウノスミビトニ。フランスタイシヤウテイ  
 トクヨリ。ツゲシラサレタリ。コゴボナガトシウノトノサマ。マツダイラカゼンノタイブト。モ  
 サル。チダイメウヨリ。フランススコツノハタヲタテタルヲ子ヲ。オ、ツ、ニテウタサレタルトコロ  
 ヲ。ワカクニ、タイシテヲ、イナル。ケイベツトゾンジテ。イマハ、キノトノサマヲ、タスニ  
 マイルケレドモ。ワレニムカワズツミナキナガトシウジウノスミビトヲ。マタツノツマコドモノ  
 ナゲキユエ。ウチナガイスコ、ロナカルエ。ソノナガトシユジウノスミビトニタイテ、ハズ  
 コシモ、アドロクニヲヨビマゼズ。カエリテモシナアヨヲジアリテワカフ子ニルヒトアラバ  
 モトヨリノトヲリムツマデウ。フランスステイトクニツボンテイトクト

アカイ
シロイ
ルリイロ

コンジテジャウヤクムスビ。イマ、デノトヲリヨクヨクコンセツニトリアツカイガ  
 ベク。ハタマスシヨクモツヲワカフ子ニモチマイルヒトアラバ、ソヲヲ、ノ子、ダンニテ  
 ハラワレマス。ジキシシヲモツテツゲシラサルコトカクノゴトクニサムラフキンケン

ニッポン太久三年  
 六月廿日







